

徳島大学病院地域医療
連携センター副センター長



久米 博子

質問
50代の夫が大腸がんと診断され、手術ができな
ないため抗がん剤治療を始めることになりました。
本人は楽観的ですが、家族はとても心配です。通院の付き
添いや体調を気にするくらいしかできませんが、他に
あけられることはないでしょうか。また、困ったときに家族が相談
できるようなことはないですか。

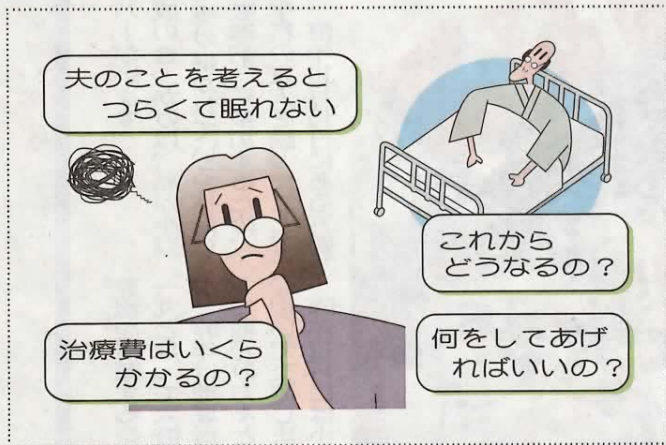


答え

ご主人のこと
をとても心配し
ている気持ちがうかがえます。
患者ががんと診断されると、
その家族の日常生活にも変化が
起こります。今まで予想しな
かった問題が生じ、家族も不安や
悩みを抱えることとなります。
相談したくても何が問題なの
か、何が分からないのかさえ分
からないこともあるかもしれま

抗がん剤治療の夫が心配

相談支援センター活用を



せん。「こんなことを聞いて恥
ずかしいのですが...」「こんな
質問ですがいいですか」といっ
た言葉を耳にしますが、気を遣
う必要はありません。疑問をそ
のままにおかなくていいことが大
切ではないでしょうか。
まず、病状や治療内容につい
て主治医と相談してみたいか

がでしよう。▽今はどのような
状態か▽どんな薬を使用するの
か▽副作用はあるか▽治療期間
はどのくらいかーなど、聞きた
いことは多いと思います。
最近、本やインターネット
などで簡単に情報を得ることも
できますが、その情報が信頼で
きるかどうかや、ご主人の状態
に当てはまるかどうかを見極め
る必要があります。主治医と一
緒に治療法の選択や療養生活
を考えると、患者や家族は納得
できるのではないのでしょうか。

次に、患者が何をしてほしい
のか、家族として何ができるか
を考えてみましょう。患者を思
うあまり、必要以上に手助けし
てしまうこともあります。それ
が患者にとっては不快なこと
であるかもしれません。▽患者の
希望に沿っているか▽他に必要
とする支援がないか▽家族がど
こまで手助けできるかを話し
合います。そうすれば、患
者が必要とすることや、家族の
手伝うことが分かります。

例えば、治療中の症状や副作
用などで食事を作っても食べて
もらえないなど、頭を悩ませる
ことがあるでしょう。食べて良
くなってしまうという思いが家
族にある一方で、患者は食べた
くても食べられないという状況
があります。作り方や工夫次第
で、患者が「これなら食べられ
る」「おいしそう」と思う料理
があるかもしれません。食事で
分からないことがあれば、栄養
士に相談もできます。
最後に、奥さまは自分の生活
も大切にして下さい。ご主人
の世話をしながら、時には自分
の時間をつくって下さい。家
族は「第2の患者」ともいわれ
ます。家族にも患者と同等か、
それ以上に精神的負担が掛かる
ことがあります。患者のことを
思うと、家族は自分のつらさを
他人に相談することができない
場合があります。まずは相談くだ

例えは、治療中の症状や副作
用などで食事を作っても食べて
もらえないなど、頭を悩ませる
ことがあるでしょう。食べて良
くなってしまうという思いが家
族にある一方で、患者は食べた
くても食べられないという状況
があります。作り方や工夫次第
で、患者が「これなら食べられ
る」「おいしそう」と思う料理
があるかもしれません。食事で
分からないことがあれば、栄養
士に相談もできます。
最後に、奥さまは自分の生活
も大切にして下さい。ご主人
の世話をしながら、時には自分
の時間をつくって下さい。家
族は「第2の患者」ともいわれ
ます。家族にも患者と同等か、
それ以上に精神的負担が掛かる
ことがあります。患者のことを
思うと、家族は自分のつらさを
他人に相談することができない
場合があります。まずは相談くだ

質問募集 がんに関する悩
みに「徳島がん対策センター」が
お答えします。質問内容を詳し
く書き、住所、氏名、年齢、性
別、電話番号を明記し、〒77
0-8572 徳島新聞社文化部
「がん相談」係へ。紙上に住
所、氏名、電話番号は掲載しま
せん。同センターへ電088
(633)(9438)でも平日
午前8時半〜午後5時に受け付
けています。